

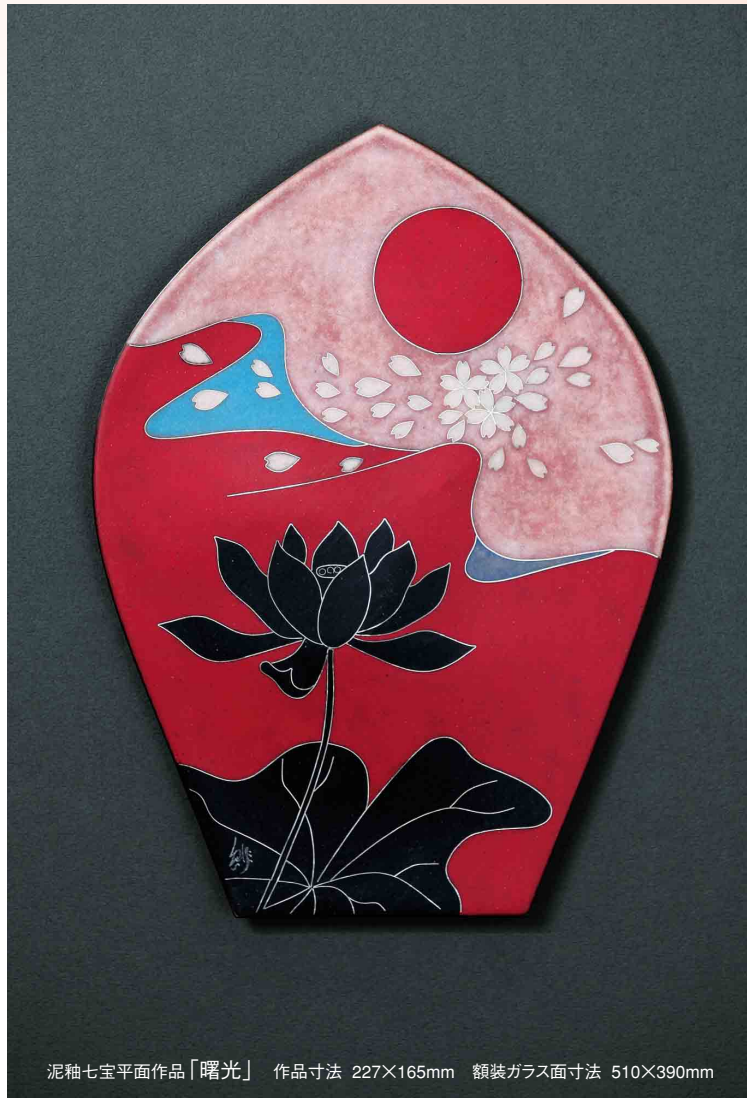
泥釉七宝 上沼緋佐子展

◆会期＝平成23年3月16日(水)→22日(火)

◆会場＝日本橋高島屋6階美術画廊

東京都中央区日本橋2-4-1 TEL(03)3211-4111(代表)

営業時間:午前10時～午後8時 最終日は午後4時にて閉場させていただきます。



泥釉七宝平面作品「曙光」 作品寸法 227×165mm 額装ガラス面寸法 510×390mm



泥釉七宝小筒「曙光」 55×55×36mm

泥釉七宝小筒「聖観音」 66×66×45mm

曙光

ある日 一枚のポスターが送られて来ました。
「並河靖之七宝記念館秋季展」。
明治の七宝師・並河靖之の波涛文香合の波が全面に溢れていました。
刹那に私は 伊勢二見の海鳴りを聴きました。
故あって封印した波の音。
膿んでしまう程に愛し、やがて出奔してしまった海。
長い旅の始まりでした。
ネパール・ヒマラヤ・カンボジア・ナイル・チベット・サマルカンド…。
何所まで逃げても、私は私の海を忘れる事は出来ませんでした。
平成21年初夏、縁あって比叡山延暦寺に転がり込むように宿りました。
延暦寺で過ごした短い日々は、私に多くの事を観念させると共に、
怒涛のように押し寄せる多くの事象は
いつしか、私の海を忘却させて行きました。
私が伊勢で制作した「経箱」を平成21年秋・延暦寺に奉納させて頂きました。
平成22年秋・延暦寺はありがたいも、国宝殿寺宝展に於いて
平安に制作された国宝経箱2点と平成に制作した私の経箱を
千年の時を超えて同時展示して下さいました。
青蓮院久邇宮朝彦親王は、嘉永5年比叡山延暦寺天台座主。
明治維新の後、安芸国広島へ謫居。
後に許され、明治8年伊勢神宮祭主・皇学館創立。
並河靖之は朝彦親王に随行奉仕しながら、七宝師でもあったと知りました。
激動の時代を心を通わせ生きた二人の男の生きざまと並河作品は
私を驚愕させ、「縁」の不思議さに呆然としながらも、
私は波の音を聴いていました。
それは、自らに課した海では無く、自らして溢れた海でした。
長い旅路の果てにたどり着いたのは、伊勢二見浦神前の海鳴りでした。
造り続ける旅は果てしなく、道程は遠い…。
それでも 小さな安らぎは、海のうねりの内に私を解き放ち、
迷いも、海に流れてしまっていた日々も、優しく包み込む
曙光への誘いでした。
ご覧頂けましたら幸いです。

上沼緋佐子

上沼緋佐子 略歴

1952年 山形に生まれる
1973年 女子美術短大彫塑教室卒業
1990年 三重県伊勢市で制作を始める
1992年 文化庁の「七宝技術研究会」で泥釉七宝の技法再現に携わる
1994年 淡交ビエンナーレ茶道美術展出品
1995年 大英博物館買上げ
1996年 高島屋にて個展開催、(東京・横浜・京都・大阪・JR名古屋)
2011年
1996年 伊勢神宮奉納
2004年 山形県天童市で制作を始める
2004年 パラミタミュージアムにて「上沼緋佐子展」
2009年 比叡山延暦寺奉納「経箱一雙梵字種子両界大日三尊」
2010年 比叡山延暦寺国宝殿寺宝展にて国宝経箱二点と同時展示
現在 日本工芸会正会員 山形県在住